

平成26年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議

作業技術部会 現地研究会 開催要領

関東東海北陸農業試験研究推進会議

作業技術部会 部会長 細川 寿

1. 趣旨

静岡県は全国第1位（H24面積 18,500ha）のお茶の生産地であり、県産茶のブランド化や6次産業化等によりその生産を振興している。一方、お茶の作付面積・生産量は、ほぼ横ばいで、静岡県における販売農家数は減少し、1戸あたりの栽培面積は増加している。しかし、中山間地や小区画圃場の茶園も少なくないのが現状である。輸出量は10年間で約3倍に増加しているが、国内消費量は横ばいから減少している。その結果、価格は低迷気味で、農家による収益差が大きい特徴があり、高付加価値化が求められている。さらに、老園化や品種の集中による作業競合が問題となっている。

そこで、静岡県の特産であるお茶について、「静岡県を中心とした茶業における作業技術的課題と取り組み」のテーマで、関連する現地事例と話題提供を通じ、生産者との意見交換を行い今後の機械化の要望等の情報収集を行うとともに、生産現場の課題解決に向けた今後の推進方策を検討し、研究の連携を進める。なお、本研究会の現地検討は、農業食料工学会関東支部と合同で開催する。

2. 開催日時

平成26年8月7日（木）9時00分～8日（金）12時00分

3. 開催場所

- 1) 1日目 現地検討（静岡県掛川市倉沢、静岡県農林技術研究所茶業研究センター 他）
- 2) 2日目 室内検討（静岡県掛川市亀の甲 掛川グランドホテル会議室）

4. 検討内容

テーマ 「静岡県を中心とした茶業における作業技術的課題と取り組み」

1) 現地検討

- (1) 製茶機器メーカー等および現地圃場ほか 静岡県製機、カワサキ機工および現地
- (2) 茶生産の機械化技術 静岡県農林技術研究所茶業研究センター

2) 室内検討

- (1) 静岡県における茶園管理機械の開発経過と普及状況 静岡県農林技術研究所 中野敬之
- (2) 野菜茶業研究所の茶生産の機械化に対する取り組み（独）農研機構野菜茶業研究所 荒木琢也
- (3) 傾斜地茶園作業省力化の現状と今後期待したい機械化技術 茶生産農家 栗崎貴史
- (4) 直掛け被覆栽培作業の機械化技術開発（独）農研機構生研センター 深山大介
- (5) 総合検討、意見交換（生産者を交えた意見交換）

3) その他

5. 参集範囲

関東東海北陸地域公立試験研究機関・行政普及部局、農水省農林水産技術会議事務局・生産局、関東農政局、東海農政局、北陸農政局、生産者、農研機構の関係者、その他部会長が認める者

6. 連絡先

〒305-8666 茨城県つくば市観音台3-1-1

中央農業総合研究センター 作業技術研究領域 長坂 善禎

Tel : 029-838-8815 Fax : 029-838-8538 E-mail : zentei@affrc.go.jp

参加申し込み、資料提出等については、別途連絡する。

【現地事務局】

〒438-0803 静岡県磐田市富丘678-1

静岡県農林技術研究所経営・生産システム科 上席研究員 山根 俊

Tel 0538-36-1551 Fax 0538-37-8466 E-mail:suguru1_yamane@pref.shizuoka.lg.jp